

岩手県 認知症老人グループホーム 柿の木ホーム

自 己 評 価 票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家族、地域の方々との交流、関わりに重きを置いて地域の一人として活動参加に努めると理念の中にある。	○	利用者の身体面、体調を考慮しながら無理のない範囲で関わっているが、地域の中へ出での交流は減ってきている。関われない現実もあり、今後も無理なく出来る範囲で関わって行きたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	今日、出来た事が明日も出来るように。無理強いすることなく利用者本人に合わせ取り組んでいる。	○	出来ていた事が時の流れと共に徐々に出来なくなっている現状ではあるが職員と共に短時間でも少しでも行えるよう取り組んで行きたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域の方々との交流の様子や活動をホーム便りを通じて、またホーム内に写真を掲示するなどして、口頭での説明を含め御理解いただいている。	○	毎日の買い物等を通じて自然な形で出来る関わりをこれからも大切にしたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	立地条件もあり近隣の方々と気軽に声を掛け合う環境になり。ホーム周辺を散歩する方と挨拶を交わす程度に留まる。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	市の広報等の情報や行事参加へのお招きを受け、参加可能な催し物への参加は行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	取り組んでいない。		
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果は、具体的な改善の気付きとなり活かされている。	○	今、出来ることを少しずつ改善に向け取り組みたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告に対する委員の皆さんからの評価・意見を受け、意見を活かす方向で取り組んでいる。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	時に訪問を受け利用者の皆さんの状況を実際目で見て頂く機会ある。解らない事や不安に思う事があれば担当職員を訪ねたり電話で相談をし指導を受けている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	パンフレット等を用いてホーム内研修を行っている。現時点では制度の活用を必要とする方はいない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待に関するホーム内研修を受け虐待防止に取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居決定前に契約書・重要事項説明書に関し約束事の説明を行い内容を理解、納得された時点での利用契約成立としている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は利用者の意を汲んで対応している。思い等は家族へ伝える。利用者は交代で運営推進会議に出席し、何かしらのホームでの生活について話す。	○ 表現できる方、出来ない方がいる。今以上に意に添った対応。汲み取りが出来るよう関わって行きたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	個々の家族に面会時等を利用して生活ぶりや健康面、気になる所など、おこずかいの収支も含め報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	どんな些細な事でもと常日頃、話はあるが意見・苦情等、聞かれない個々の家族の相談事には出来る範囲で対応している。	○ 安心してお任せいただいているが何も無いのも不安である。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見・提案のあるときは、その都度、話をし対応してもらっている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況に応じ対応している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動はあるが、ほとんどの方が認知症ケアの経験者で、利用者への大きなダメージはなく経過している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要とする研修参加への指示はある。新しい情報、知識を身につける事の重要性を折に触れ職員に伝えている。資格取得のためのスクーリングや他施設の現場実習も出勤扱いで対応するなど職員育成に努めている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度より岩手県認知症高齢者グループホーム協会・沿岸北ブロックの活動が開始となり近隣のグループホームがとても身近になった。活動を盛り上げる為のミーティング・研修会等々、交流が活発に行われている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務表作成時、休日の希望日を受けシフトを組んでいる。慰安旅行や納涼会等を計画し職員が職場を離れリラックスし楽しむ時間が持てるよう参加を促し実地している。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員は日々の積み重ねの中で運営者の応援を受け介護福祉士等の資格取得の目標に向かい努力し勤務している。利用者に対しより良いサービスの提供を折に触れ職員に説く機会がある。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談者は家族の方がほとんどで在宅での介護困難のケースが多い	○ 家族の相談を受け、本人と会いたい事を伝え、本人と会い関わり状態・状況を知るところから始めている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用にあたり家族が抱える問題を含め利用者の介護困難の部分把握した上で職員は情報を共有し初期対応している。	○ あくまでも家族の御事情・御都合に合わせて事が運べるように対応して行きたいが利用後も共に介護する姿勢を持ち続けて頂きたい旨、家族には御理解を求めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス利用まで考えは及ばない。初期対応の一番は「慣れる」事で、ゆっくりと時間をかけ向き合い、関わり、「落ち着いて生活出来る様になる」時を待ちたい。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームへの訪問をお願いしている。短時間でもホームの様子・雰囲気を知って頂く上で重要と考えている。職員も本人を知る(会う)良い機会となつている。入院・他施設から直で利用される方に関しては面会を重ね交流に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事や作業の場面では知恵を拝借すること多々あり、共に活動、作業することで頼ったり頼られたりと良い関係ができています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に過すホームの行事参加を通じて、また面会・外出・外泊を通じて家族との関わりを少しでも多くとお願いしている。	○	家族の都合、事情もあり出来る範囲での家族との関係を保っていければと願う。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族には本人が抱える認知症の行動障害を理解して頂き、諦めるのではなく別の関わり方や見方を変えることでもっともっと関わって欲しいとお願いしている。	○	ホームでの生活の状況は良い時ばかりではない、悪い状態も含め報告して行きたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親類縁者に限らず知人、なじみの方々の面会はあり関わりが続いている。日々の外出、ドライブ等を利用しなじみの場所・自宅付近へ行ったりしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の皆さんは、なじみの顔、面々が側に居ることに安心を覚え穏やかに暮らしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居理由のほとんどが入院加療という事で本人の状態を見て可能であれば面会し声を掛ける程度に留まる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表現できない方が多い。言動・行動を通じて気持ちを汲み取り対応している。起床時間も自由・就寝時間も自由。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、本人もしくは家族にバックアセスメントシートへの記入をお願いしている。他のサービス利用歴は事業所からの情報提供を頂き把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	24時間アセスメントシート記入による日々の暮らしぶり・健康チェック表を確認しながら、出来ること・出来ないことを総合的に把握し支援している。		
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	24時間アセスメントシートへの記入、内容確認、サービス提供の必要性、家族の意向を総合し介護計画を作成している		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的なケースカンファレンスを行い見直している。変化が生じた場合には暫定的に今、必要とするサービス内容に変更し家族へ報告、現状に即した介護サービスを提供している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・気づき・対応等は行動録へ、ケア提供は確認表へ記入し見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設病院外の受診・通院の支援等、家族の都合、要望に応じて対応し支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの皆さん・消防署等、多くの方々の支援を受けている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者、または家族へ他のサービス利用の支援はしていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現時点ではない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望もあり併設病院の医師が主治医となり、職員は必要に応じて受診の支援をしている。主治医は状況により往診し利用者を診てくれる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	併設病院は精神科があり必要に応じ相談・受診の支援を受けている。年1回、頭部CT撮影検査を実施している。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設病院との医療連携体制のもと担当看護師はホーム利用者の状況をよく知り、何かあれば即対応、支援してくれる。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病状による。ホームでの加療が可能と判断された場合には早めにホームへ戻れるよう配慮している。職員は情報提供・指示を受け対応している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制指針に記されている通り「重度化」・「終末期」「看取り」のあり方は、本人・家族・主治医の話し合いのもとで決定されることとしている。	○	ターミナルケア、看取りに関するホーム内の研修を行い取り組んでいる段階にある。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族へ主治医へ日々の様子・変化等を報告し、重ねて家族には状況確認できる機会(面会)を多く持つてほしい事などお願いし、本人の望む無理のない生活を一番に考えている		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	必要とされる情報提供を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者、一人ひとりに合った対応がなされている。難聴の方が多く指示を理解できない状況が日常的で「耳元で大きな声で繰り返し」の対応が現況である。記録等の管理はなされている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自主的な言行動ををサポートする形で、また声掛けによる本人の判断、納得でき行動できるよう支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床から就寝まで本人の意思を尊重しているが判断できない方には声を掛け確認のもと支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	パーマ・カット等、本人の希望に添った支援をしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物から食事準備・後片付けまで「できること」への作業を促がしながら、出番の声を掛け無理強いすることなく関わり職員と共に日々取り組んでいる。	○ 配膳を楽しみに待ち「自力摂取できることが楽しみ」の状況になりつつある利用者の状況に合わせることが基本と思う。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	特に制限は無い。好み、状況に合わせている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表への記入、確認しながら排泄ケア・トイレ誘導等、利用者一人ひとりの排泄状況を把握し支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は月曜日から土曜日まで週6日間・午後行っている。本人の希望・声掛けに納得のもと入浴を楽しんでもらえるよう支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の状況を見て、昼夜を通して支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事参加・散歩・ドライブ・作業等々、出来る事・好む事に目を向けて支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者9名・金銭への執着が無い。財布を所持している方はいない。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に買い物兼ねたドライブや外気浴等、外へ出ている。「世の中を見ましよう」と希望を募り、かかわりを持ちながら支援している。	○	自分から意を表出できる方は少なく、声を掛け判断を仰ぐという流れになっているが外出・外気浴、ドライブを好む方が多く、これからも大いに楽しんでもらいたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行事を通じ家族と外出する機会を提供している。日々のドライブは「海・山・花」等、選択肢を示してドライブの目的を決めてもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自力で電話をかけられる方はいない。訴え、必要に応じ、声の便りが届けられるよう支援している。家族等からの電話を受けた時には本人と少しでも話しが出来るように介助している。	○	家族へ電話を掛け「喜ばせてほしい」こと、本人の声を聞く事での「様子や元気の確認」を お願いしている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時は、ゆっくりと過ごしていただける様に配慮し、お茶やお菓子を提供している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は無い。身体拘束に関する資料を用い勉強会を行い職員全員で取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間帯の施錠以外は玄関に鍵をかける事はない。出入自由のため目が離せない状況もあるが、玄関の開閉はセンサーが音で知らせる設備があり、出入を察知できるようになっている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は昼夜を通じて、利用者の所在確認・人員確認をし安全確認を徹底している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	安全の為・事故を未然に防ぐ為に判断できない物品は見えない所に保管する等の取り組みをしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者ひとり一人の状況を把握し事故発生のリスクに応じ関わっている。緊急通報体制や併設病院との緊急時対応・防災マニュアルを活用し事故防止と発生時対応に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	夜間帯・夜勤者1名の体制で不安はあるが、併設病院との24時間緊急時対応に助けられている。職員の大半は初期対応できる。	○	定期的に事故や緊急時・初期対応の訓練は行ってきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防署員の指導を受け訓練を行っている。地域の方々へは、緊急時の協力をお願いしお引き受け頂いている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	疾病によるリスク、高齢であること、日々の暮らしの変化等、必要に応じ理解して頂ける様に家族と話し 本人にとって「しめつけのない」暮らしを支援している。	○	利用期間が長期になっている方が多く、高齢であること・心身面の重度化「いつ、なんどき、何が起こるか判らない」リスクを家族も心得ていてくれている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々のバイタル測定のデーターをもとに異変に気が付くケースが多い。情報は申し送り事項となり記録される。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている お薬の内容を知り、日々の利用者の心身の変化を見ながら、必要に応じ主治医に報告・相談し対応してもらっている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取を重要と考えている。好みの飲み物を提供し少しでも多めに水分を摂取できるよう工夫している。慢性便秘の方がほとんどでホームで出来る事としてセンナ茶を飲用させ排便を助けている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後ゆっくりと多目のお茶を摂るよう促している。食後、うがいをされる方もあり 日中は本人の意思を尊重・無理強いはいはない。	○	夕食後、就寝前には口腔ケアを徹底し義歯はポリデント洗浄している。継続して行ってゆきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の皆さんは、残食なく、食事を楽しんで摂取している。利用者それぞれの咀嚼力、口腔内の状態に合せ 粥・刻み食等と形態に気を配り食事を提供している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関わる研修を受けたり、既存のマニュアルを基本にして感染症の予防に取り組んでいる。	○	インフルエンザ予防接種をはじめ、初期症状での早期受診でホーム内へのまんえんを防止できる。今まで通りの手洗い・うがい等 出来る事で予防に取り組みたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	水まわりの衛生管理・食中毒の予防に取り組んでいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	開所し7年が経過している。大きな変化はない。面会者・来訪者は自由に気がねなく出入している。自動ドアが安全確保のため手動ドアになっていることも皆さんご存知である。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所・食堂・談話の場が一つの空間になっており、利用者はもちろんの事、職員も全体を見回せる造り、環境にあり安心して生活している		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内、あちこちにソファや椅子を置き、好きに自由に過ごせるように工夫、配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたもの・馴染みの物、品を持って来ていただく様をお願いしている。利用者はそれぞれが、今の状況に居心地よい様で、落ち着いて寝起きしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室には換気扇・ホールには空調設備があり稼働している。利用者の状況に合わせ窓の開閉やエアコンの使用等 調整に努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の壁には全体に手すりが取り付けられている。ところどころに椅子を置き 休み休みしながら、自力で移動(歩く)を助ける工夫がなされている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者ひとり一人の「わかる力」を知り それぞれの状況に合わせて「わかる力」を維持できるように必要な支援をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	各居室の外には各々プランターを置き好みの花を植え育て楽しんでいる。自主的に野菜の収穫を楽しみにしている方もいる。玄関先や裏の庭にベンチを置き自由に外気浴をたのしんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の高年齢化、介護度の重度化と身体的介護を要する方が増えている。
 認知症の進行も重なり「出来ること」も徐々に少なくなっている。
 介護スタッフは、場面、場面で声をかけ その時の気付き 反応に重きを置いて
 言動・行動の意を汲み取りサポートしながら のんびりと 穏やかな
 ホームでの暮らしを守りたい。